



## 近畿支部会報 2008年1月号

### 近畿支部長年頭挨拶

会員の皆様、今年も楽しいサーバス活動を共有したいと思いますので、皆様のご協力とご指導をよろしくお願いたします。以下に昨年の総会と本年の国内会議の準備会のご報告をいたします。

### 日本サーバス、近畿支部総会報告

サーバス近畿支部の年度末総会が12月1日午後5時より、大阪弥生会館で行われました。以下の事業報告と意見交換の後、懇親会で皆さんのお食事を楽しく頂きました。

#### 1. 2007年度事業報告

- 2月3日 臨時総会：支部長の選出 (12名出席) 高槻市立生活学習センター
- 3月17、18日 日本サーバス国内会議 (近畿支部メンバー 7名)  
「大田区生活センター第5会議室」
- 4月7、8日 極東アジア大会 (近畿メンバー 3名) アリランホテル釜山駅前
- 4月21日 例会 (17名) ハービス大阪イベントルーム
- 7月14日 例会 (14名) 京都賀茂川がんど
- 10月6日 例会 (8名) ハービス大阪イベントルーム
- 12月1日 年次総会 (16) 大阪弥生会館

HP上の会報発行、臨時総会：2月 春号：4月 夏号：8月 秋号：11月 冬号：2008年1月

- 2. 国内会議出席の「韓国サーバスメンバーの受け入れ」についての上承が得られました。
- 3. 確認事項：トラベラー受け入れ報告は義務です。皆様の今後の認証に係わってきます。
- 4. 連絡がつかないメンバーへの対処法：書面で最終確認をする。
- 5. 国内会議の議題の提案：ITの研究会、コーディネーターの仕事内容について、年会費未納者の扱い方。

#### 今年度 (2008) 平成20年度の事業計画

- 1月 国内会議準備会 (1月12日、済み)
- 3月 国内会議 (3月29、30日) 決定済み (提案：桜の蕾を、皆様と賀茂川へ散策)
- 5月 例会：楽しい勉強会 (10日あたり) 10月例会 (10日あたり)

11月例会：楽しい勉強会（10日あたり） 役員の意見交換を含む

12月総会（5日あたり）

### 準備会での決定事項（参照：HP上での秋の例会報告）

1. 今年度からLOIはある雛形を参考に必要内容を書いていただきます。会員は振込み入金後は、振込み領収用紙のコピーを写真と共に面接委員にお渡しください。面接委員はそのコピーをさらに自分用にコピーします。会員票、またはサインしたLOIの原本は支部長へ送って下さい。支部長はLOIにスタンプを貼って写真に割り印をしたコピーと会員票の原本を保存します。LOIは原本を会員に返送します。
2. 国内会議ではメンバーの皆様が普段目にしない討議が行われています。どうか参加していただいて、サーバスの運営がどう行われているか見ていただきたいと思います。その後の懇親会も楽しいものになると思います。
3. 国内会議のお手伝いを募集しています。また、（二日目）日曜日の午後、大会終了後にどこか半日の京都観光をしたいと思っています。時間的なことも含めてどこか適切な所がありましたら、アイデアを募集しています。高田副支部長までお願いします。
4. 韓国メンバーの大会への参加があるというお知らせが届いています。ホストが出来る方は申し出て下さい。
5. 出席をご希望の方は人数の確認が必要ですので必ずお知らせください。すでにお知らせいただいている方には、恐れ入りますが重複することとなっています。
6. 新たな報告の必要：トラベラーからの連絡があり、受け入れ、お断りのいずれの場合でも、そのつど支部長に報告をすることになりました。トラベラー数の把握、トラベラーの希望に添うお世話、メンバーの希望に添うお世話を目的としています。（名誉会長談：新しい会員が沢山のtravelersを受け入れるチャンスをもてるように、組織的に努力することが必要。）

### 昨年から世界各地でボランティアで活躍しているUさんのレポートをお読みください。

1. こんにちは、Uです。イングランド旅行の報告をさせていただきます。  
HELPEXCHANGE というWEBサイトで見つけたボランティア先で3週間過ごしました。  
場所- Liverpoolから電車で30分ほど離れたWirralという地域。

職業が医者である夫Rと妻H小学生が4人の家庭での半ホームステイ。半というのは、家族が住む家とは同じ敷地ないですが、ボランティアは少し離れたテントでの就寝、トイレはコンポストとして再利用できるトイレの利用だったからです。

プロジェクトの内容- 旧家屋を解体し、そこにこの家庭のための、エコハウスを建てるというプロジェクト。  
建材は環境にやさしいものを使い、水は雨水の再利用、電気も自給できる建物を目指して現在進行中です。

また 6 エーカーある所有地には池があり、そのそばにエコ小屋を建てること、家のそばには屋内プールを建設するといったことも同時進行で行っています。これらのプロジェクトがユニークなこともあり、過去には BBC での TV 放映や、電気会社の社員が泊まり込みで、研究しに来るなど、話題になっているようです。私の滞在中にも教授と大学生が見学に来ていました。

作業内容- 私はホームセンターに 5 年間勤めていましたので、フォークリフトの運転や電動工具の扱い、力仕事などその経験がフルに活用された仕事ばかりでした。基本は力仕事ですが、主に行った作業は、旧家屋の解体、そこで出たレンガの再利用のためのコンクリート剥がし、プール天井のペイント、湖小屋の屋根/壁フェルト張り、床用の木材カットなどです。しかし、ホームセンター時代は販売が主だったため、使用するのが初めての道具や建材がかなりあり、勉強になりました。次は、今晚ロンドンを出発し、南アフリカ、ケープタウンへ向かいます。



2. こんにちは、U です。南アフリカ、ケープタウンでの約 2 週間についてご報告させていただきます。

何のあても見いだせないまま、約 2 週間前にケープタウン入りしましたが、街についてすぐホテルを発見し、そのホテルの従業員にボランティア先を知っているか尋ねたところ、孤児を養っている NPO のファームを 1 件知っており紹介してもらいました。

その NPO 代表にもすぐに受け入れの返事をもらい、その翌日から現在までファームに住み込みでボランティアを行っています。

#### NPO- Hope for the children

場所- ケープタウンのダウントウンから徒歩で 30 分ほど。このファームからは観光名所のテーブルマウンテン、ライオンズヘッドが見上げられる素晴らしい景色の場所です。

事業内容- ヤギ、鶏、ブタのファームと野菜畑を運営。全てオーガニック。野菜畑には、一般の野菜だけでなく、エイズの治療薬としてテスト段階に入っている植物やマラリアの治療薬として有効な植物、ハウレン草の 20 倍の栄養素を含むアフリカ伝統のハウレン草などの興味深いものが植えられています。そして、同じ敷地内に、ストリートチルドレンやホームレスの老人や家族を受け入れ、住居を提供。子供たちには仕事を手伝わせて、覚えさせています。受け入れている人数は 15 人ほど。小さな NPO ながら去年は現地の新聞でも取り上げられたこともあり、毎日のように地元の見学者が来ています。

仕事内容- 私は主に農作業を手伝いました。草刈り、耕作、苗の移植、土の移動など。週に 2 回ほど休みを頂き、休日にファームの子供たちとビーチでサッカーをし、また別の休日にはケープポイントのツアーに参加するなど、観光も行いました。

次回の予定ですが、現在、このファームの代表がケープタウンから離れた地域のボランティア先とコンタクトを取って、私の受け入れを調整中で、連絡が届き次第、次の場所へと移ります。 \*Uさん頑張ってくださいね。



## Wさんの韓国レポート

昨年1月、韓国ウルサンから女性三世代のデイホストの依頼のメールが入った。達者な日本語の文面に伺える人柄に心ひかれ、デイホスト登録だが、ぜひ泊まって欲しいと返事をした。高齢のお母さんは日本の占領時代の辛い体験を持つ。サーバスメンバーである50代のKさんは高校の日本語教師。娘のJさんは最初の赤ちゃんが生まれなかった悲しみを癒す旅。

Kさんは早くに父を亡くし、母の大変な苦労を見てきた。ようやく落ち着いた今、母を海外旅行に連れて行くことが永年の念願だった。母親が日本人の家庭に泊まることに抵抗があり、デイホストならと我が家を指定。こちらは前支部長のKさんが突然旅発たれた直後で、何かにつけて前支部長のKさんを憶う日々。思い切ってお泊り頂こうと決めたら前支部長のKさんの笑顔が浮かんだ。

石山駅でリュック姿の3人を見つけ手を振ると、なんとお母さんが駆け寄って私を強く抱きしめてくれた。言葉は不要だった。お互いに目が潤んでいた。Kさんは日本語と韓国語で実に丁寧に通訳される。母親に一言も漏らさずに通訳しようとするその親思いの深さに打たれた。

夕食後、お母さんは占領時代の話がされた。私たちは申し訳なさをどうしようもなくただ聞き入った。お母さんは気持ちを伝えようと私の手を握る。正淑さんの通訳を聞いて今度は私が握り返す。するとお母さんは私を抱きしめる。こんなことが繰り返された。

お母さんの表情には不思議と怨み辛みは見えなかった。それが何より有難かった。琵琶湖、奈良、宇治と車で案内しながら、親しみを増した。

帰る時、お母さんが夫に言った。「私が元気なうちに必ず来てください」その語調には確かに熱がこもっていた。夫は「約束します」と握手した。若い娘のJさんは日本のドラマのビデオを見るのが好きで、話せないが、聞いて

ていてかなりわかる風だった。2日目の朝、彼女が突然日本語を話し始めた！！ みんなで驚いた。

さて秋になり、夫が突然韓国へ行こうと言い出す。夫から旅行を言いだしたのは珍しい。スケジュールは厳しかった。しかし私の母も亡くなり、誰もいつまでも元気である保障はない。夫が約束を果たしたい気持ちを尊重しなかった。しかし連休で飛行機は満席、先方へは行くことを伝えてしまったので、博多から船便を予約、するとプサンへの空の便があることを知らされ、運よく最後の2枚を入手。

プサンからウルサンまではかなり遠いので高速バスで行くと言っても駄目だった。「私たちのお客様ですから」とご主人の運転でプサンまで出迎え、プサンの景勝地を案内してからウルサンへ。まずお母さんの待つアパートへ。お母さんは飛び出してきた私たちを交互に抱きしめる。ああ、来られて良かったとしみじみ思う。

お母さんの手料理をご馳走になり、Kさんのアパートへ。「あなた方がここのご主人です」と3DKのアパートの主寝室を宛がわれ恐縮しかった

Kさんのご主人は独学の日本語で熱心に話をし、ジョークを飛ばし、この年代の日本人であることの辛さを感じさせない心使いがあふれる。家族はみなカトリック信者だが、ミサを私たちの寝ているうちに済ませて、連日、海印寺、通度寺、仏国寺などかなり遠方まで案内して下さる。

仏国寺へは日没前に行き、僧侶たちの日想観の太鼓を聴くようにとサーバスの役員から薦められたとのこと。誰もいなくなった境内に4人で待つと、5時半に僧侶たちが行列して高台の大太鼓の前に並び、美しい入日に合掌、5時45分太鼓が轟く。一人一人個性的だが、聞く者の腑に染入る。6時に打ち終わると同時に下から梵鐘が鳴り響く。丁度日没で暗くなる。4人とも言葉がなかった。ああ、この国から日本へ仏教が齎されたのだと身に沁み

た。Jさんは幸い懐妊、ソウルで安静を保っている。今度こそ無事出産を願う。加害の民が被害の民に恕されて歓待を受けるこの恵み。平和と友好の賜物。私たちは正淑さんたちの名誉ある初めてのサーバストラベラーだった。

W

Mさんがホストをなさった韓国トラベラーからのお礼の写真です。

